

定期作況報告（最終）

（第7号 平成13年11月20日）
北海道立上川農業試験場

1. 気象概況

《平成12年》

11月：平年より最高気温は上旬が0.2℃高く、中旬、下旬が3.1、3.2℃低く、最低気温は上旬が0.9℃高く、中旬、下旬が1.2、3.5℃低かった。平年より降水量は各旬とも各々11.7、1.5、7.7mm多く、日照時間は上旬が5.7時間少なく、中旬、下旬が6.0、1.7時間多かった。

12月：平年より最高気温は各旬とも各々3.3、1.4、1.6℃低く、最低気温は各旬とも各々4.8、0.5、2.1℃低かった。平年より降水量は上旬が0.9mm少なく、中旬、下旬が10.6、12.6mm多く、日照時間は上旬、下旬が5.1、2.9時間多く、中旬が1.1時間少なかった。

《平成13年》

1月：平年より最高気温は各旬とも各々1.4、5.3、0.5℃低く、最低気温は各旬とも各々3.2、6.3、0.7℃低かった。平年より降水量は各旬とも各々5.4、4.0、2.4mm少なく、日照時間は各旬とも各々11.0、13.7、5.3時間多かった。

2月：平年より最高気温は各旬とも各々2.1、4.7、0.2℃低く、最低気温は上旬、中旬が0.6、2.7℃低く、下旬が平年並であった。平年より降水量は各旬とも各々13.2、11.3、4.8mm多く、日照時間は上旬、中旬が13.4、10.7時間少なく、下旬が平年並であった。

3月：平年より最高気温は各旬とも各々2.3、0.1、0.1℃低く、最低気温は上旬、中旬が2.0、3.0℃低く、下旬が3.1℃高かった。平年より降水量は上旬、下旬が2.2、2.0mm多く、中旬が2.2mm少なく、日照時間は上旬が9.0時間多く、中旬、下旬が0.6、22.6時間少なかった。

4月：最高気温は上旬、中旬が0.7、4.9℃高く、下旬が1.1℃低く、最低気温は上旬、中旬が0.1、2.9℃高く、下旬が2.7℃低かった。平年より降水量は上旬、下旬が6.4、15.6mm少なく、中旬が13.1mm多く、日照時間は上旬が12.0時間少なく、中旬、下旬が8.4、32.3時間多かった。

5月：平年より最高気温は各旬とも各々1.0、4.6、0.9℃高く、最低気温は上旬が1.2℃低く、中旬、下旬が2.7、0.3℃高かった。平年より降水量は上旬が0.2mm多く、中旬、下旬が8.2、9.4mm少なく、日照時間は各旬とも各々17.5、21.5、14.5時間多かった。

6月：平年より最高気温は上旬、下旬が2.7、1.4℃高く、中旬が3.9℃低く、最低気温は上旬、下旬が1.6、0.7℃高く、中旬が3.4℃低かった。平年より降水量は各旬とも各々12.7、8.7、7.6mm多く、日照時間は上旬が11.2時間多く、中旬、下旬が0.8、7.9時間少なかった。

7月：平年より最高気温は上旬、下旬が1.3、0.6℃低く、中旬が1.5℃高く、最低気温は上旬、下旬が0.4、0.6℃低く、中旬が2.6℃高かった。平年より降水量は各旬とも各々61.0、53.1、12.8mm多く、日照時間は上旬、中旬が16.1、17.3時間少なく、下旬が3.9時間多かった。

8月：平年より最高気温は上旬、下旬が1.8、0.8℃低く、中旬が3.2℃高く、最低気温は上旬、中旬が2.7、1.3℃低く、下旬が0.2℃高かった。平年より降水量は上旬、中旬が14.8、40.9mm少なく、下旬が40.4mm多く、日照時間は上旬、中旬が15.1、59.7時間多く、下旬が9.6時間少なかった。

9月：平年より最高気温は上旬、下旬が0.8、1.5℃低く、中旬が0.1℃高く、最低気温は上旬、下旬が1.3、3.7℃低く、中旬が1.5℃高かった。平年より降水量は上旬、中旬が62.4、29.8mm多く、下旬が25.7mm少なく、日照時間は上旬、下旬が1.7、6.3時間多く、中旬が2.0時間少なかった。

10月：平年より最高気温は上旬、中旬が0.6、0.1℃低く、下旬が0.9℃高く、最低気温は上旬、中旬が0.1、1.1℃高く、下旬が0.6℃低かった。平年より降水量は各旬とも各々1.6、2.1、27.7mm少なく、日照時間は各旬とも各々4.3、1.5、1.1時間多かった。

根雪終は4月11日で、平年より3日早く、積雪期間が平年より6日長かった。耕鋤始は4月18日で平年より7日早かった。晩霜は5月4日で、平年より7日早かった（表1）。

平成12年11月から平成13年10月までの気象は表2の通りである。

表1 季節

	初霜 (前年)	降雪始 (前年)	根雪始 (前年)	根雪終 (月日)	積雪期間 (日)	降雪終 (月日)	耕鋤始 (月日)	晩霜 (月日)
本年	10.20	10.18	11.16	4.11	147	4.22	4.18	5.4
平年	10.11	10.23	11.25	4.14	141	4.28	4.25	5.11
比較	9	△5	△9	△3	6	△6	△7	△7

注1) 本年は平12～13年の値。

2) 根雪始、根雪終、積雪期間、耕鋤始の平年値は、平成6～12年(7か年)の比布圃場の観測値。

3) 初霜、降雪始、降雪終、晩霜の平年値は、旭川市の値。

平均値は過去9カ年の値。

4) △印は平年に比べて早を示す。

表2 平成13年度気象表

年 月 旬	最高気温(°C)			最低気温(°C)			平均気温(°C)			降水量(mm)				降水日数(日)			日照時間(hr)			
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較	(%)	本年	平年	比較	本年	平年	比較	(%)
2000 上	8.3	8.1	▲ 0.2	0.9	0.0	▲ 0.9	4.1	4.0	▲ 0.1	48.5	36.8	11.7	132	7.0	6.5	▲ 0.5	16.8	22.5	▲ 5.7	75
11 中	1.8	4.9	▲ 3.1	-3.0	-1.8	▲ 1.2	-0.6	1.6	▲ 2.2	40.0	38.5	1.5	104	8.0	6.6	▲ 1.4	22.4	16.4	▲ 6.0	137
下	0.1	3.3	▲ 3.2	-6.4	-2.9	▲ 3.5	-2.9	0.0	▲ 2.9	40.0	32.3	7.7	124	8.0	6.4	▲ 1.6	20.1	18.4	▲ 1.7	109
12 上	-2.8	0.5	▲ 3.3	-10.5	-5.7	▲ 4.8	-6.3	-2.4	▲ 3.9	26.0	26.9	▲ 0.9	97	7.0	7.3	▲ 0.3	20.1	15.0	▲ 5.1	134
中	-4.1	-2.7	▲ 1.4	-9.8	-9.3	▲ 0.5	-6.7	-5.6	▲ 1.1	38.5	27.9	10.6	138	8.0	7.7	▲ 0.3	13.0	14.1	▲ 1.1	92
下	-4.2	-2.6	▲ 1.6	-11.8	-9.7	▲ 2.1	-7.8	-5.7	▲ 2.1	35.5	22.9	12.6	155	7.0	7.7	▲ 0.7	20.2	17.3	▲ 2.9	116
2001 上	-5.2	-3.8	▲ 1.4	-14.9	-11.7	▲ 3.2	-9.8	-7.3	▲ 2.5	14.5	19.9	▲ 5.4	73	5.0	7.1	▲ 2.1	26.9	15.9	▲ 11.0	169
1 中	-9.5	-4.2	▲ 5.3	-18.8	-12.5	▲ 6.3	-14.2	-7.9	▲ 6.3	11.5	15.5	▲ 4.0	74	3.0	6.3	▲ 3.3	33.7	20.0	▲ 13.7	169
下	-5.8	-5.3	▲ 0.5	-15.0	-14.3	▲ 0.7	-9.7	-9.3	▲ 0.4	20.0	22.4	▲ 2.4	89	7.0	7.0	0.0	36.4	31.1	▲ 5.3	117
2 上	-6.8	-4.7	▲ 2.1	-14.9	-14.3	▲ 0.6	-10.7	-8.9	▲ 1.8	25.0	11.8	13.2	212	8.0	5.3	▲ 2.7	24.0	37.4	▲ 13.4	64
中	-7.7	-3.0	▲ 4.7	-15.1	-12.4	▲ 2.7	-10.9	-7.2	▲ 3.7	27.5	16.2	11.3	170	8.0	6.7	▲ 1.3	24.8	35.5	▲ 10.7	70
下	-1.9	-1.7	▲ 0.2	-11.7	-11.7	0.0	-5.9	-6.5	0.6	12.0	7.2	4.8	168	6.0	2.5	▲ 3.5	34.9	34.9	0.0	100
3 上	-3.2	-0.9	▲ 2.3	-13.2	-11.2	▲ 2.0	-7.8	-5.7	▲ 2.1	18.5	16.3	2.2	114	4.0	5.5	▲ 1.5	55.4	46.4	▲ 9.0	119
中	1.0	1.1	▲ 0.1	-10.8	-7.8	▲ 3.0	-4.2	-3.0	▲ 1.2	15.0	17.2	▲ 2.2	87	4.0	5.9	▲ 1.9	43.9	44.5	▲ 0.6	99
下	3.1	3.2	▲ 0.1	-3.2	-6.3	▲ 3.1	-0.1	-1.4	▲ 1.3	19.5	17.5	2.0	112	6.0	4.7	▲ 1.3	30.9	53.5	▲ 22.6	58
4 上	7.4	6.7	▲ 0.7	-2.5	-2.6	0.1	2.5	2.1	0.4	9.0	15.4	▲ 6.4	59	2.0	4.4	▲ 2.4	41.9	53.9	▲ 12.0	78
中	13.5	8.6	▲ 4.9	1.8	-1.1	▲ 2.9	7.5	3.7	▲ 3.8	30.0	16.9	13.1	178	5.0	3.7	▲ 1.3	56.4	48.0	▲ 8.4	117
下	12.0	13.1	▲ 1.1	-1.1	1.6	▲ 2.7	5.5	7.2	▲ 1.7	4.5	20.1	▲ 15.6	22	2.0	4.0	▲ 2.0	75.7	43.4	▲ 32.3	174
5 上	15.4	14.4	▲ 1.0	2.0	3.2	▲ 1.2	8.0	8.6	▲ 0.6	31.0	30.8	0.2	101	2.0	4.7	▲ 2.7	65.6	48.1	▲ 17.5	136
中	21.7	17.1	▲ 4.6	8.1	5.4	▲ 2.7	15.1	11.2	▲ 3.9	15.0	23.2	▲ 8.2	65	3.0	3.7	▲ 0.7	74.6	53.1	▲ 21.5	141
下	20.6	19.7	▲ 0.9	8.5	8.2	0.3	14.1	13.8	0.3	19.5	28.9	▲ 9.4	67	2.0	4.1	▲ 2.1	69.6	55.1	▲ 14.5	126
6 上	22.2	19.5	▲ 2.7	10.6	9.0	▲ 1.6	16.0	14.0	▲ 2.0	39.5	26.8	12.7	148	5.0	4.1	▲ 0.9	58.1	46.9	▲ 11.2	124
中	18.2	22.1	▲ 3.9	8.2	11.6	▲ 3.4	13.2	16.6	▲ 3.4	29.0	20.3	8.7	143	4.0	2.9	▲ 1.1	47.4	48.2	▲ 0.8	98
下	24.7	23.3	▲ 1.4	12.9	12.2	0.7	18.5	17.5	▲ 1.0	26.0	18.4	7.6	141	2.0	2.6	▲ 0.6	45.4	53.3	▲ 7.9	85
7 上	22.7	24.0	▲ 1.3	13.8	14.2	▲ 0.4	18.0	18.8	▲ 0.8	89.5	28.5	61.0	314	5.0	3.6	▲ 1.4	26.4	42.5	▲ 16.1	62
中	26.5	25.0	▲ 1.5	17.5	14.9	▲ 2.6	21.3	19.7	▲ 1.6	84.5	31.4	53.1	270	5.0	4.3	▲ 0.7	34.0	51.3	▲ 17.3	66
下	25.8	26.4	▲ 0.6	16.9	17.5	▲ 0.6	20.8	21.5	▲ 0.7	94.0	81.2	12.8	116	5.0	5.6	▲ 0.6	44.5	40.6	▲ 3.9	110
8 上	23.8	25.6	▲ 1.8	13.5	16.2	▲ 2.7	18.4	20.6	▲ 2.2	18.0	32.8	▲ 14.8	55	1.0	3.7	▲ 2.7	61.7	46.6	▲ 15.1	132
中	28.4	25.2	▲ 3.2	14.8	16.1	▲ 1.3	21.2	20.2	▲ 1.0	0.0	40.9	▲ 40.9	0	0.0	4.6	▲ 4.6	100.5	40.8	▲ 59.7	246
下	24.4	25.2	▲ 0.8	15.6	15.4	0.2	19.6	19.9	▲ 0.3	87.0	46.6	40.4	187	7.0	4.0	▲ 3.0	43.1	52.7	▲ 9.6	82
9 上	22.2	23.0	▲ 0.8	11.9	13.2	▲ 1.3	16.8	17.7	▲ 0.9	130.0	67.6	62.4	192	4.0	5.2	▲ 1.2	52.3	50.6	▲ 1.7	103
中	20.5	20.4	0.1	12.0	10.5	▲ 1.5	16.0	15.1	▲ 0.9	83.5	53.7	29.8	156	5.0	5.8	▲ 0.8	42.1	44.1	▲ 2.0	96
下	17.3	18.8	▲ 1.5	4.9	8.6	▲ 3.7	10.8	13.3	▲ 2.5	32.0	57.7	▲ 25.7	55	6.0	6.0	0.0	50.7	44.4	▲ 6.3	114
10 上	15.4	16.0	▲ 0.6	6.0	5.9	0.1	10.2	10.6	▲ 0.4	38.5	40.1	▲ 1.6	96	4.0	5.2	▲ 1.2	43.8	39.5	▲ 4.3	111
中	13.8	13.9	▲ 0.1	4.8	3.7	▲ 1.1	9.0	8.7	0.3	30.5	32.6	▲ 2.1	94	5.0	5.3	▲ 0.3	37.2	35.7	▲ 1.5	104
下	12.9	12.0	▲ 0.9	2.0	2.6	▲ 0.6	7.1	7.0	0.1	13.0	40.7	▲ 27.7	32	3.0	5.4	▲ 2.4	35.5	34.4	▲ 1.1	103

1) 比布アメダス観測値。

2) 平年は比布アメダス前10カ年の平均値。

3) ▲印は平年に比べて減を示す。

2. 作 況

(1) 水 稲： やや良

事 由：出芽は出芽器使用による中苗は概ね良好で、成苗もほぼ平年並みであった。育苗期間中は日照時間が多かったため、苗の生育は良好で移植時の苗素質は中苗の草丈がやや短かったものの、葉数、地上部乾物重ともに全品種・苗で平年を上回った。

移植(5月21日)後、活着は良好で6月上旬の好天により生育が進み、葉数・茎数・草丈ともに増加したが、6月中旬の低温により生育が停滞し葉色が黄化した。その後、生育は回復したが、6月30日を除き、茎数は平年を下回ったまま推移し、特に、「ほしのゆめ」中苗の茎数は平年を大きく下回った。幼穂形成期は平年より1~2日早かった。

各品種・苗とも最終止葉葉数はほぼ平年並で、止葉期は平年並~3日早かった。出穂期は各品種・苗とも平年並~4日早く、開花はほぼ順調であった。穂揃日数は8日で、中苗が平年より2日長く、成苗が平年より1日長かった。出穂後の初期登熟は緩慢であったが、8月中旬が高温・多照で気温の日較差が大きかったため、出穂後30日目から40日目にかけて登熟が進んだ。成熟期は9月11~13日で平年より4~6日早く、登熟日数は平年より2~5日短かった。各品種・苗とも稈長はほぼ平年並で、穂長は平年並から長く、 m^2 当たり穂数は茎数が少なかったため平年並から平年を下回った。

[籾数]穂数が平年より少なく、一穂籾数は平年より中苗が多く、成苗が少なかった。このため、 m^2 当たり籾数(m^2 当たり穂数×一穂籾数)は中苗が平年並からやや多かったが、成苗は平年より少なかった。

[稈実歩合・稈実籾数]稈実歩合は平年並以上で、 m^2 当たり稈実籾数(m^2 当たり籾数×稈実歩合)は中苗が平年並であったが、籾数の少なかった成苗は平年を下回った。

[登熟歩合・ m^2 当たり登熟籾数]登熟歩合は平年より高く、特に成苗は平年対比115%であった。このため、 m^2 当たり登熟籾数は中苗・成苗ともに平年より多かった。

[精玄米千粒重]品種間差が見られ、「ほしのゆめ」中苗は平年を下回り平年対比97%であったが、「きらら397」は中苗・成苗とも平年を上回り、特に成苗は平年対比105%であった。

[精玄米重]粒厚1.90mm以上の収量は、千粒重がやや軽く屑米率が高かった「ほしのゆめ」中苗は平年対比97%であったが、「きらら397」の中苗および成苗は平年対比それぞれ112、113%であった。

[検査等級]各品種・苗とも1等で、玄米品質は良かった。

品種・苗を込みにした収量の平年対比は107%で良と判定されるが、千粒重および収量に品種間差が見られ「ほしのゆめ」中苗が平年を下回ったことと、「ほしのゆめ」成苗が供試されていないことを勘案すると、本年の作況はやや良と考えるのが妥当である。

表3 平成13年度水稻の生育および収量

		品種・苗	きらら397中		きらら397成		ほしのゆめ中		
		年次	2001	平年	2001	平年	2001	平年	
生育期	播種期	(月・日)	4.18	4.17	4.12	4.13	4.18	4.17	
	移植期	(月・日)	5.21	5.21	5.21	5.21	5.21	5.20	
	幼穂形成期	(月・日)	7.02	7.03	6.28	6.30	6.30	7.01	
	止葉期	(月・日)	7.17	7.19	7.14	7.17	7.17	7.17	
	出穂期	(月・日)	7.28	7.29	7.23	7.27	7.27	7.27	
	穂揃日数	(日)	8	6	8	7	8	6	
	成熟期	(月・日)	9.13	9.19	9.12	9.18	9.11	9.15	
	登熟日数	(日)	47	52	51	53	46	50	
	生育日数	(日)	148	155	153	158	146	152	
苗生育	草丈	(cm)	9.4	10.3	14.1	9.8	10.1	10.8	
	葉数	(枚)	3.5	3.1	5.0	3.8	3.6	3.1	
	地上部乾物重	(g/100本)	2.30	2.13	6.12	3.48	2.58	2.11	
本田生育	主稈葉数	6月10日	(枚)	6.5	5.7	7.2	5.9	6.1	5.4
		6月20日	(枚)	7.6	7.6	8.2	7.9	7.2	7.3
		6月30日	(枚)	9.5	9.2	9.8	9.4	9.0	9.0
		7月10日	(枚)	10.3	10.3	10.6	10.4	9.8	10.0
		7月20日	(枚)	11.3	11.2	11.0	11.1	10.7	10.7
		7月30日	(枚)	11.3	11.3	11.0	11.1	10.7	10.8
	m ² 当たり茎数	6月10日	(本)	260	139	353	175	198	189
		6月20日	(本)	413	445	531	505	366	431
		6月30日	(本)	940	886	990	932	785	849
		7月10日	(本)	945	1032	941	1032	850	1010
7月20日		(本)	815	976	749	957	776	968	
7月30日		(本)	788	808	736	833	769	812	
草丈	6月10日	(cm)	25.5	19.3	30.2	20.3	26.5	21.2	
	6月20日	(cm)	27.2	27.0	33.1	28.5	28.5	26.9	
	6月30日	(cm)	37.9	38.9	41.4	40.6	39.1	39.7	
	7月10日	(cm)	53.4	54.0	53.7	56.4	54.4	57.3	
	7月20日	(cm)	71.3	64.1	71.7	67.4	73.8	68.8	
	7月30日	(cm)	85.3	80.3	83.0	82.2	90.3	85.7	
本田生育	稈長	(cm)	68.4	68.3	66.7	68.0	73.7	71.7	
	穂長	(cm)	17.8	16.3	16.7	16.4	17.3	16.1	
	穂数	(本/m ²)	677	685	675	722	689	773	
	有効茎歩合	(%)	71.6	67.3	68.2	69.5	81.1	75.9	
収量構成要素	一穂籾数	(粒)	51.5	48.3	45.8	47.9	49.6	44.9	
	m ² 当籾数	(×1000)	34.9	33.7	30.9	34.5	34.2	34.3	
	稔実歩合	(%)	90.9	91.2	93.7	89.6	90.6	91.8	
	m ² 当稔実籾数	(×1000)	31.7	30.7	29.0	30.9	31.0	31.5	
	登熟歩合	(%)	77.7	75.7	86.7	75.6	81.5	79.5	
	稔実籾登熟歩合	(%)	85.5	83.5	92.4	84.4	89.9	87.3	
	精玄米千粒重	(g)	22.7	22.4	23.7	22.6	21.9	22.6	
	籾摺歩合	(%)	77.2	78.9	79.4	78.9	74.3	78.0	
	屑米歩合	(%)	5.3	4.4	3.2	6.4	11.6	5.2	
収量	藁重	(kg/10a)	626	636	623	637	683	612	
	精籾重	(kg/10a)	848	744	859	755	771	761	
	籾藁比	(%)	136	118	138	121	113	131	
	精玄米重	(kg/10a)	652	583	666	589	571	586	
	収量比	(%)	112	98	113	100	97	99	
	検査等級		1	1中下	1	1中下	1	1中下	

注1) 平年値:「きらら397」は平成7、8、9、11、12年の5か年、「ほしのゆめ」は平成9～12年の4か年の平均値。

2) 精玄米重: 粒厚1.9mm以上。

(2) 秋まき小麦 : やや不良

事由：播種は、降雨のため、平年より10日遅い9月21日に行った。播種が遅れたため、越冬前の生育量は平年より劣った。積雪期間は平年より6日長く、雪腐病の発生は平年よりわずかに多かった。発生菌種は雪腐褐色小粒菌核病が主体であった。5月以降気温が平年より高く経過したため、出穂期は平年より6日～8日早まった。6月中旬の低温と6月下旬以降の多雨、日照不足の影響を受けたことから、成熟期は平年より1日～3日早まるにとどまった。

越冬前の生育量が不足したことから、茎数は越冬後も平年より少なく推移し、穂数も平年を大きく下回った。稈長は平年より9cm～14cm短く、穂長も0.7cm～0.9cm短かった。

「タイセツコムギ」は、穂数が平年を大きく下回ったものの、登熟日数が43日と長く、粒の充実に好影響し、そのため千粒重は平年を大きく上回り、子実重の対平年比は104%となった。「ホクシン」も千粒重が平年を上回ったものの、穂数の減少が大きく影響したため、子実重の対平年比は91%と低収となった。2品種平均の子実重対平年比は98%であった。

したがって、本年の作況は「やや不良」である。

表4 秋まき小麦の生育および収量

品 種 名		タイセツコムギ			ホ ク シ ン		
		本 年	平 年	比 較	本 年	平 年	比 較
項 目	年 次						
播種期	(月日)	9.21	9.11	10	9.21	9.11	10
出穂期	(月日)	6.7	6.15	△8	6.4	6.10	△6
成熟期	(月日)	7.20	7.23	△3	7.16	7.17	△1
越冬茎歩合	(%)	94.9	88.6	6.3	103.0	98.5	4.5
雪腐病発病度		50.0	46.3	3.7	31.3	30.0	1.3
葉数(枚)H12.10.20		3.1	5.2	▲2.1	3.4	5.4	▲2.0
草 丈 (cm)	H12.10.20	16.7	24.0	▲7.3	16.4	22.2	▲5.8
	H13.5.20	44.2	38.9	5.3	41.9	39.0	2.9
	H13.6.20	85	91	▲6	84	91	▲7
茎 数 (本/ ㎡)	H12.10.20	534	1151	▲617	468	1228	▲760
	H13.5.20	678	965	▲287	702	1090	▲388
	H13.6.20	498	619	▲121	506	692	▲186
成 熟 期	稈長 (cm)	76	85	▲9	72	86	▲14
	穂長 (cm)	8.2	9.1	▲0.9	7.8	8.5	▲0.7
	穂数(本/㎡)	413	523	▲110	401	628	▲227
総 重	(kg/10a)	1142	1341	▲199	1117	1443	▲326
子実重	(kg/10a)	519	499	20	508	556	▲48
同上	平年比 (%)	104	100	4	91	100	▲9
リットル重	(g)	776	758	18	785	778	7
千粒重	(g)	43.1	38.9	4.2	42.6	38.8	3.8
検査等級	(等)	2下	—	—	1	—	—

注1) 平年値は、前7か年中、平成6年、7年を除く5か年の平均値。

2) △は平年より早を、▲は平年より減を示す。

(3) とうもろこし : 良

事由：播種が平年より3日早く、播種後の気温も平年より高かったため、出芽期は平年より8日早まった。このため、初期生育は良好で草丈、出葉数とも平年を上回る生育を示した。その後、6月中旬の低温の影響で生育が一時停滞したため、抽雄期、抽糸期とも平年より1日早くなるにとどまった。抽糸期以降の生育は、気温がほぼ平年並に推移したため特に障害もなく経過し、平年並の9月19日に収穫を行った。収穫時の熟度は平年並であった。

稈長が平年より長くて生育量が多く、不稔個体割合も平年より少なかったため、乾総重、乾雌穂重とも平年を大きく上回り、総体の乾物率もほぼ平年並であったことから、TDN収量の対平年比は114%~116%と多収を示した。

したがって、本年の作況は「良」である。

表5 とうもろこしの生育および収量

品 種 名		キ ャ ュ タ カ			P 3 7 3 2		
項 目	年 次	本 年	平 年	比 較	本 年	平 年	比 較
播種期	(月日)	5. 9	5.12	△ 3	5. 9	5.12	△ 3
出芽期	(月日)	5.21	5.29	△ 8	5.22	5.30	△ 8
抽雄期	(月日)	7.23	7.24	△ 1	7.29	7.30	△ 1
抽糸期	(月日)	7.28	7.29	△ 1	8. 3	8. 4	△ 1
収穫期	(月日)	9.19	9.19	0	9.19	9.19	0
草 丈 (cm)	6月20日	55	42	13	48	40	8
	7月20日	245	215	30	235	204	31
	8月20日	301	271	30	350	301	49
出葉数 (枚)	6月20日	9.5	7.3	2.2	9.0	7.2	1.8
	7月20日	17.4	16.3	1.1	17.9	16.7	1.2
	8月20日	18.1	17.6	0.5	19.4	18.8	0.6
収 穫 期	稈 長 (cm)	271	241	30	315	265	50
	着雌穂高 (cm)	118	107	11	154	129	25
	熟 度	黄中	黄中	—	黄初	黄初	—
不稔個体割合 (%)		8.3	9.0	▲0.7	1.7	16.3	▲14.6
乾総重 (kg/10a)		1881	1650	231	2060	1836	224
乾雌穂重 (kg/10a)		933	758	175	927	753	174
総体の乾物率 (%)		26.9	26.8	0.1	26.6	27.1	▲0.5
TDN収量(kg/10a)		1345	1164	181	1447	1266	181
同上平年比 (%)		116	100	16	114	100	14

注1) 平年値は、前7か年中、平成10年、12年を除く5か年の平均値。

2) 平成10年度より栽植本数を7576本/10aに変更した。

3) △は平年より早を示す。▲は平年より減を示す。

(4) 大 豆 : 平年並

事 由： 播種が平年より4日早かったことに加え、播種後の気温が高かったため、出芽期は平年より6日早まった。出芽後も生育は順調で、6月中旬の低温で一時停滞したものの、開花期は両品種とも平年より3日早まった。7月に入ると日照時間が短く、降水量も多くなり、生育はやや軟弱徒長の様相を呈し、7月下旬の長雨で全面的に倒伏した。7月下旬から8月上旬にかけては一転して低温となり、8月中旬には気温がほぼ平年並に回復したものの、成熟期は「トヨムスメ」で平年より3日遅れ、「トヨコマチ」では平年並となった。両品種とも主茎長及び主茎節数はほぼ平年並であった。分枝数は、「トヨムスメ」で平年並で、「トヨコマチ」では平年より多かった。倒伏と8月上旬までの低温のため、中生種の「トヨムスメ」では、着莢数が平年より少なかった。中生の早種の「トヨコマチ」では、開花・着莢が進んでいたこともあり、低温の影響は認められず、着莢数は平年よりやや多かった。

登熟期間が長かったため、百粒重は両品種とも平年より10%以上重かった。このため子実重は、着莢数の少なかった「トヨムスメ」で平年比95%、「トヨコマチ」では平年比110%となった。屑豆率は平年より少なかったが、検査等級は平年より劣った。

したがって、本年の作況は「平年並」である。

表6 大豆の生育および収量

品 種 名		ト ヨ ム ス メ			ト ヨ コ マ チ		
項 目	年 次	本 年	平 年	比 較	本 年	平 年	比 較
播種期	(月日)	5.17	5.21	△ 4	5.17	5.21	△ 4
出芽期	(月日)	5.29	6. 4	△ 6	5.29	6. 4	△ 6
開花期	(月日)	7.13	7.16	△ 3	7.12	7.15	△ 3
成熟期	(月日)	10. 6	10. 3	3	9.26	9.26	0
主茎長 (cm)	6月20日	12.2	9.0	3.2	14.4	10.8	3.6
	7月20日	60	52	8	64	59	5
	8月20日	65	62	3	65	66	1
	9月20日	65	63	2	66	66	0
	成熟期	65	64	1	67	66	1
主茎 節数 (節)	6月20日	3.4	3.6	▲0.2	4.1	3.8	0.3
	7月20日	10.2	10.1	0.1	11.2	10.9	0.3
	8月20日	10.2	10.4	▲0.2	11.0	11.0	0.0
	9月20日	10.2	10.4	▲0.2	11.1	11.0	0.1
	成熟期	10.2	10.3	▲0.1	11.2	10.7	0.5
分枝数 (本 /株)	7月20日	6.9	6.7	0.2	7.5	6.6	0.9
	8月20日	8.1	7.0	1.1	7.3	6.4	0.9
	9月20日	6.6	7.0	▲0.4	7.4	6.0	1.4
	成熟期	7.0	6.8	0.2	7.7	6.2	1.5
着莢数 (個)	8月20日	82	88	▲ 6	82	83	▲ 1
	9月20日	65	78	▲ 13	79	73	6
	成熟期	69	80	▲ 11	81	76	5
子実重 (kg/10a)		417	438	▲ 21	452	410	42
同上平年比 (%)		95	100	▲ 5	110	100	10
100粒重 (g)		41.7	36.2	5.5	37.7	34.1	3.6
屑豆率 (%)		0.3	1.9	▲1.6	0.7	2.1	▲1.4
検査等級 (等)		3下	3上	—	3下	2下	—

注1) 平年値は、前7か年中、平成6年及び7年を除く5か年の平均値。

2) △は平年より早を示す。▲は平年より減を示す。

(5) 小 豆 : 良

事 由： 播種は平年より3日早い5月18日に行った。播種後の気温が高かったため、出芽期は平年より6日～7日早まった。初期生育は順調で、6月中旬の低温少照のため生育が一時停滞したが、下旬以降、気温の上昇とともに生育は回復し、開花期は平年より1日早まった。7月中旬以降、高温・少照となり、降水量も多かったため、生育は徒長気味となり、7月下旬の降雨により全面的に倒伏した。開花・着莢は7月下旬から8月上旬までの低温で緩慢となり、その後気温の回復とともに開花・着莢は再び旺盛となったが、8月中旬以降、土壌が干ばつ気味となったため、落花・落莢がみられた。成熟期は平年より3日遅れた。両品種とも主莖長は平年より長く、分枝数は少ないものの、全体的な生育は旺盛となった。最終的な着莢数は、7月中旬に開花・着莢が始まった「サホロショウズ」では平年をやや上回ったものの、やや遅れて開花した「エリモショウズ」では平年を下回った。登熟期間が長かったため、百粒重は両品種とも平年より重く、このため子実重は平年より26%多収となった。屑豆率は両品種とも平年より低く、検査等級は「サホロショウズ」で平年を若干上回り、「エリモショウズ」で平年を下回った。したがって、本年の作況は「良」である。

表7 小豆の生育および収量

品 種 名		サホロショウズ			エリモショウズ		
項 目	年 次	本 年	平 年	比 較	本 年	平 年	比 較
播種期	(月日)	5.18	5.21	△ 3	5.18	5.21	△ 3
出芽期	(月日)	6. 2	6. 8	△ 6	6. 2	6. 9	△ 7
開花期	(月日)	7.19	7.20	△ 1	7.22	7.23	△ 1
成熟期	(月日)	9. 4	9. 1	3	9. 8	9. 5	3
主莖長 (cm)	6月20日	4.1	4.0	0.1	4.6	4.2	0.4
	7月20日	32	26	6	31	24	7
	8月20日	80	59	21	72	54	18
	成熟期	81	57	24	76	55	21
本葉数 (枚)	6月20日	1.3	0.9	0.4	1.2	0.9	0.3
	7月20日	8.2	7.3	0.9	8.7	7.6	1.1
	8月20日	12.3	10.7	1.6	12.8	11.0	1.8
分枝数 (本/株)	7月20日	4.6	5.7	▲1.1	5.2	5.5	▲0.3
	8月20日	5.2	6.2	▲1.0	7.3	6.2	1.1
	成熟期	5.0	5.7	▲0.7	5.1	5.5	▲0.4
着莢数 (個)	成熟期	60	57	3	50	57	▲ 7
子実重	(kg/10a)	403	320	83	400	318	82
同上	平年比 (%)	126	100	26	126	100	26
100粒重	(g)	14.7	13.3	1.4	14.1	11.8	2.3
屑豆率	(%)	0.9	2.8	1.9	1.4	2.2	0.8
検査等級	(等)	2上	2中	—	3上	2中	—

注1) 平年値は、前7か年中、平成12年を除く6か年の平均値。

2) △は平年より早を示す。▲は平年より減を示す。

(6) ばれいしょ 作 況 : 平年並

事 由：植付けは、平年より2日早い5月8日に行った。植え付け後、5月第5半旬が少雨に経過したことから初期の生育は抑制気味であった。6月中旬が低温であったことから、生育は一時停滞気味となり、萌芽期が2日～3日早かったものの、開花始は平年より1日～2日早い程度にとどまった。

「男爵いも」は、7月下旬の疫病発生のため、枯凋期が平年より9日早くなったが、7月6半旬から8月中旬まで日照時間が平年より多く、最低気温も平年より低めに経過したことから、塊茎の肥大とでん粉の蓄積には良好な気象経過であったため、上いも収量ならびに中以上いも収量はそれぞれ平年比115%、111%と多収を示した。でん粉価はほぼ平年並であった。

「農林1号」は、平年当场では枯凋期に達しないが、本年は8月の干ばつの影響もあり9月9日に枯凋期となった。上いも収量と中以上いも収量はそれぞれ平年比92%、85%と平年より少なかった。でん粉価は平年並であったが、でん粉収量は平年比90%と少なかった。

したがって、本年の作況は「平年並」である。

表8 ばれいしょの生育および収量

品 種 名		農 林 1 号			男 爵 い も		
項 目	年 次	本 年	平 年	比 較	本 年	平 年	比 較
植付期	(月日)	5. 8	5. 10	△ 2	5. 8	5. 10	△ 2
萌芽期	(月日)	5. 24	5. 27	△ 3	5. 25	5. 27	△ 2
開花始	(月日)	6. 24	6. 26	△ 2	6. 24	6. 25	△ 1
枯凋期	(月日)	9. 9	未達	—	8. 17	8. 26	△ 9
茎 長 (cm)	6月20日	36	32	4	37	30	7
	7月20日	79	74	5	47	41	6
	8月20日	92	91	1	—	—	—
上いも重	(kg/10a)	5034	5486	▲452	5099	4440	659
中以上							
いも重	(kg/10a)	4157	4907	▲750	4139	3743	396
でん粉価	(%)	14.3	14.3	0.0	13.7	13.4	0.3
でん粉重	(kg/10a)	670	748	▲78	—	—	—
対平年比	上いも重	92	100	▲8	115	100	15
	中以上						
	いも重	85	100	▲15	111	100	11
	でん粉重	90	100	▲10	—	—	—

注1) 平年値は、前3か年の平均値。

2) △は平年より早を示す。▲は平年より減を示す。

(7) てんさい 作 況 : やや不良

事 由 : 播種は平年よりやや早い3月27日に行った。播種が早まったため発芽期も早まった。移植は平年より1日遅い5月8日に行い、5月10日の降雨により活着は順調であった。しかし、その後干ばつ傾向に推移したことから初期生育はやや抑制された。6月、7月は多雨傾向となり、草丈は平年を上回る生育を見せたが、日照時間が短めに経過したことから葉数は平年を下回った。8月に入ると少雨になり根部の肥大も劣った。8月下旬以降は多雨で日照時間も平年並に経過したため生育はやや回復した。

その結果「モノホマレ」は、9月20日段階で、草丈、葉数、根周がほぼ平年並に回復し、収穫時では茎葉重、根重は平年を下回ったものの根中糖分は平年を上回り、糖量はほぼ平年並となった。一方、「ストーク」は、9月20日段階でも葉数、根周が平年を下回り、収穫時の根重が平年を大きく下回った。そのため、糖分は平年を上回ったが糖量は平年より少なかった。

したがって、本年の作況は「やや不良」である。

表9 てんさいの生育および収量

品 種 名		モノホマレ			ストーク		
項 目	年 次	本 年	平 年	比 較	本 年	平 年	比 較
播種期	(月日)	3.27	3.30	△ 3	3.27	3.28	△ 1
発芽期	(月日)	4.5	4.7	△ 2	4.2	4.5	△ 3
移植期	(月日)	5.8	5.7	1	5.8	5.7	1
収穫期	(月日)	10.18	10.18	0	10.18	10.16	2
草 丈 (cm)	5月20日	5.1	5.6	▲ 0.5	5.2	7.7	▲ 2.5
	6月20日	36	31	5	38	35	3
	7月20日	63	56	7	61	57	4
	8月20日	66	61	5	65	60	5
	9月20日	66	61	5	59	59	0
生葉数 (枚 /株)	5月20日	3.5	3.9	▲ 0.4	4.1	4.8	▲ 0.7
	6月20日	11.7	13.5	▲ 1.8	11.4	12.3	▲ 0.9
	7月20日	23.5	24.3	▲ 0.8	21.2	22.5	▲ 1.3
	8月20日	26.6	27.7	▲ 1.1	25.6	28.0	▲ 2.4
	9月20日	32.9	31.6	1.3	28.7	30.6	▲ 1.9
根 周 (cm)	7月20日	22.3	23.0	▲ 0.7	23.0	24.0	▲ 1.0
	8月20日	25.9	29.6	▲ 3.7	29.9	31.5	▲ 1.6
	9月20日	33.4	33.2	0.2	34.6	35.8	▲ 1.2
茎葉重	(kg/10a)	5091	5267	▲ 176	4746	4834	▲ 88
根重	(kg/10a)	7302	7951	▲ 649	6164	7233	▲1069
根中糖分	(%)	17.43	16.33	1.10	18.50	17.66	0.84
糖量	(kg/10a)	1272	1284	▲ 12	1140	1271	▲ 131
対平年比	根 重	92	100	▲ 8	85	100	▲ 15
	根中糖分	107	100	7	105	100	5
	糖 量	99	100	▲ 1	90	100	▲ 10

注1) 「モノホマレ」の平年値は、前7か年中平成10年、11年を除く5か年の平均値。

「ストーク」の平年値は、前4か年の平均値。

2) △は平年より早を示す。▲は平年より減を示す。

表10 各作物の耕種概要

①水稲

苗	苗種類	播種量 (乾粒重) (g/箱、枠)				施 肥 量 (g/m ²)			
						N	P ₂ O ₅	K ₂ O	N追肥(g/箱)
代	中苗マット	100				6.0	12.0	10.2	1 + 1
	成苗ポット	35				3.0	7.2	3.0	—
	(//置き床)	—				(27)	(34)	(18)	—
本	苗種類	畦巾 (cm)	株間 (cm)	1株 本数 (本)	株数 (株/m ²)	施 肥 量 (Kg/10 a)			
						N	P ₂ O ₅	K ₂ O	堆肥
田	中苗マット	33.3	12.0	4	25	8.0	9.7	6.9	1000
	成苗ポット	33.3	12.0	3	25	8.0	9.7	6.9	1000

②畑作物

作物名	前作物	畦巾 cm	株間 cm	1株 本数 (本)	播種 粒数 本/m ²	株数 (株/ 10a)	施 肥 量 (Kg/10 a)				
							N	P ₂ O ₅	K ₂ O	MgO	堆肥
秋まき小麦	緑肥大豆	30	—	—	255	—	4.0+6.0	10.0	6.0	2.5	—
とうもろこし	ばれいしょ	60	22	1	—	7576	10.0+2.0	18.0	12.0	3.0	—
大豆	秋まき小麦	60	20	2	—	8333	1.8	10.2	9.0	2.5	—
小豆	秋まき小麦	60	20	2	—	8333	3.0	12.0	7.0	3.0	—
ばれいしょ	チコリ	75	30	1	—	4444	7.0	14.0	9.8	3.5	—
てんさい	秋まき小麦	60	23	1	—	7246	14.4	20.4	13.2	6.0	—